

地域医療連携室

# フレンディーだより

*Community medicine cooperation room*



中央ジョージア医療センターから、パーバラ・スティッケル看護部長とT.J.Lin先生が看護交流のため5月15日に来られました。



**2008**

vol. **27**

H20.6 発行

黒部市民病院 黒部市三日市1108-1

E-mail : friendly@med.kurobe.toyama.jp





## 下新川郡医師会長 になって

下新川郡医師会長 池田 一郎

平成20年4月1日より下新川郡医師会長を任命され微力ながら私のできる範囲でがんばってまいりたいと思います。

現在、下新川郡医師会には、黒部市、入善町、朝日町に96名の会員と黒部市民病院とあさひ総合病院の公的病院があります。平成20年度は特定健診、特定保健指導、後期高齢者医療制度の開始とそして2年に一度の診療報酬改定もあり一度にたくさんの医療情勢の変化があり会員共々右往左往してとまどっている状況であります。このような時こそ会員同士の情報交換や病院との連携がますます重要になってまいります。公的病院とのオープンベッドの利用促進、さらに扇状地ネットの利用による患者様のいち早い情報交換等たくさんの病院とのメリットを大いに利用しつつ、下新川郡医師会においても、黒部市、入善町、朝日町の地域にこだわることなくお互いに協力しあい情報を共有しながら地域住民の健康を守るために日々努力していきたいと思っております。





# 栄養サポートチーム (NST)

外科部長 NST担当  
森 和弘

栄養サポートチーム (NST) とは、米国で1970年に病院内に作られた低栄養患者に対する栄養治療を専門に行うチームのことです。米国ではこのチーム活動により病気の治癒が早期になり、入院期間が短縮したとの実績があり、日本にも導入されました。

日本では栄養に関する静脈経腸栄養学会などが中心になり、1998年以降広まってきました。病気を治すのにエネルギーとなる栄養が十分に必要であるとの認識から、栄養サポートが行われ、医師、栄養士、看護師、薬剤師、臨床検査技師などいろいろな職種の専門家から作られたチームにより結成されています。

当院NSTは2005年9月より活動を開始しています。NSTの活動は、まず栄養不良の患者を見つけ出し、栄養不良の原因を調べ、飲みこみ（嚥下）はうまくできているか？栄養（カロリー）は不足していないか？などということの評価します。そして、個々の症例に合った食事内容、栄養量を考えます。さらに病態や治療内容に合った食事内容を考え、治療の手助けをします。



具体的には、毎週水曜日と金曜日に栄養不良の患者様のケースカンファレンスと回診を行っています。また、毎月第3月曜日にはNSTミーティングと勉強会を行っています。勉強会ではチームのメンバーを講師として栄養に関する様々なテーマについて発表・討論を行っています。



昨年からは地域の先生方にも参加していただいています。このようなNSTの活動によって、栄養療法の効果が現れ早く退院できたケースやそれまで栄養不良で寝たきりだった症例が栄養の改善により退院可能となったケースなどを経験しました。

最近はいろいろな分野で地域連携の重要性が叫ばれています。栄養の分野も例外ではなくPEGや褥瘡の治療、在宅緩和ケアなどで地域連携が益々重要となってきています。今後、当院NSTも地域連携クリニカルパスなどを利用して地域連携を図り、患者様の病状が早く改善し、早く退院でき、安心・安全な日常生活が送れるようにサポートしていきたいと思えます。どうぞ、栄養サポートチームを宜しくお願いします。





# 診療科紹介

## リハビリテーション科



いつも諸先生方には大変お世話になり、誠にありがとうございます。2008年4月より黒部市民病院リハビリテーション科を担当させて頂いております吉野と申します。私は、元々整形外科専門医、リハビリテーション認定臨床医の資格を持ってはいましたが、今春、現時点で富山県内10人目となるリハビリテーション専門医を取得し、さらなる飛躍を目指して努力する所存です。今後ともご指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。

さて、当院のリハビリセンターですが、東病棟の西側、あるいは救命救急センターの南側に位置し、地下1階、地上2階の総面積1,976㎡の広さを有しています。現在、スタッフは医師2名、理学療法士7名、作業療法士3名、言語聴覚士2名、健康運動指導士1名、看護師1名、事務員1名で構成されています。脳血管疾患、神経筋疾患、整形外科疾患、呼吸器疾患等により様々な機能障害、能力障害、社会的不利を持つ患者様に対して、主にその急性期や術後のリハビリテーション（以下リハビリ）をさせて頂いております。まだまだ改善すべき点もありますが、疾患ごとのリハビリ用パスである「リハビリチャート」を独自に作成・運用したり、地域医療連携室（フレンドイー）と協力し自宅復帰に向けて具体的な支援を行ったり、また、定期的にカンファレンスを開いたりなど、より効果的なリハビリを展開することができるよう心がけています。その他の特色として、健康運動指導士が、関節スポーツ外科にて加療を受けられるアスリートのフォームチェックを行ったり、内科にて加療を受けておられる糖尿病患者の運動指導を行ったり、また、言語聴覚士が、耳鼻咽喉科に相談に来られる言語発達遅延児の言語療法を行ったりもしています。



リハビリは、患者様の生活や人生を考える仕事でもあり、本来であれば、急性期から回復期、さらには維持期まで見守ることが一つの理想ではありますが、実際にそれを一つの病院で行うことは非常に困難です。地域医療は徐々に「自己完結型医療」から「地域完結型医療」へと転換しつつあり、「病-病連携」、「病-診連携」が非常に重要となってきています。皆様方もご存じの通り、2006年の診療報酬改定により地域連携パス加算が新設され、まずは「大腿骨頸部骨折地域連携パス」が運用され、2008年度からは「脳卒中地域連携パス」が導入されてきています。この地域連携パスの運用により、より円滑な「病-病連携（急性期から回復期）」、「病-診連携（回復期から維持期）」が期待されるとともに、維持期におきましては患者様のADLレベルの維持や傷病の再発予防に結び付けることが重要と考えます。すなわち、リハビリも、回復期・維持期の診療に携わっておられる諸先生方、ならびに介護保険サービスに従事しておられる方々のご助力により完結されるものと考えています。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



関節スポーツ外科 リハビリテーション科 スタッフ  
今田光一郎長（前列中央）、吉野 修医長（前列右から3番目）



## ふれあい看護体験

ナイチンゲールの生誕にちなんで今年も「ふれあい看護体験」が催された。看護協会では看護師の仕事を理解してもらうという趣旨で一般の市民の参加を募り、毎年全国でイベントが行われる。当院でも今年は6人の主婦の方々に参加をしていただき、小児科産科病棟、整形外科病棟、外科病棟の3箇所で沐浴見学、手浴、車椅子散歩、血圧測定などを体験していただいた。忙しい看護師の動きに驚きながらも患者とのふれあいに感激し、自分の娘にも体験させてみたいなどといった感想がきかれ充実した日になったことと思われた。



## 講演・勉強会のご案内

## 1. 新川胸部疾患検討会

日時：毎月第2木曜日  
午後6：30～  
午後8：00  
場所：本館3階 指導室

## 2. オープンベッドカンファレンス

日時：偶数月の第2水曜日（6月は中止）  
午後6：45～  
午後7：45  
場所：本館3階 指導室

## 3. 内科カンファレンス

日時：毎週火曜日  
午後6：40～  
場所：本館3階 指導室

## 4. 講演

日時：平成20年6月11日(水)  
午後5：30～  
講師：市立輪島病院 院長 品川 誠先生  
演題：「能登半島地震における  
市立輪島病院の対応」